

第4学年 音楽科 学習指導案

日 時 平成15年11月14日5校時
場 所 音楽室
学 級 4年4組 (男17名、女17名)
指導者 瀬川 智佐

1. 題 材

歌声や楽器のふしの重なりを聴きながら合わせよう。

2. 題材について

本題材は、学習指導要領の以下の部分を受けて設定した。

A 表現

(2) 曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。

イ 拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化を感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること。

B 鑑賞

(1) 音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取るようにする。

イ 主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素に気を付けて聴くこと。

ウ 楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また、それらの音や声の組み合わせを感じ取って聴くこと。

(1) 児童観

これまで児童は、「とんび」で旋律の山や抑揚を意識して歌ったり、「おどろう楽しいポーレチケ」では拍の流れに乗って歌ったりしてきた。拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化を感じとって、それを素直に表現できない固さが目立っていた。そのため音楽の流れを身体全体で受け止めいきいきと演奏したり、身体表現したりする活動をできるだけ多く取り入れるように心がけてきた。その結果、旋律線を素直に歌い、表現する児童が少しずつ増えている。さらに、音楽発表会の合唱練習を通して、柔らかい響きのある発声ができるようになってきた。しかし、歌のめり張りや躍動感には欠ける傾向があり、自分の旋律を歌うことに精一杯で、他声部に耳を傾けながら歌うことはまだ十分ではない。

(2) 教材観

主教材として「パレードホッホー」を取り上げる。この曲は、旋律の前半部と後半部を重ねて歌うことにより合唱の響きが楽しめる構成のパートナーソングである。そのため、主旋律に対して低声部のパートを覚えるといった学習が不要で、旋律全体を歌うことでそのまま合唱の響きを楽しむことができる曲である。パートナーソングは、和声的な合唱とは違い、それらが独立した旋律を重ね合う対立的な合唱である。前半アの部分は、同音が細かいリズムで連続していたり、シンコペーションのリズムが使われていたりすることから歯切れよく歌わせたい。後半イの部分

は、緩やかな動きのリズムで、伸び伸びとレガートな感じで歌わせたい。それぞれの特徴を生かした歌い方で、旋律を重ね合わせ響きを感じ取れるようにしたい。

「きゅう友」は、旋律の重なり合う響きに関連した鑑賞教材として取り上げる。躍動的な「主なふし」に対し、滑らかな「もう一つのふし」が重なって響く様子に気づき、そのおもしろさ、美しさ、さらに、吹奏楽のダイナミックな響きも味わえるようにしていきたい。

「冬の歌」は、そりが走るような軽快な主旋律にリコーダーによる副次的な旋律が付けられる。さらに打楽器を加え、歌やリコーダーを引き立てるように心地よく響くバランスのよい演奏を心がけさせながら工夫させていきたい。

(3) 指導観

本題材では、声を重ねて楽しむパートナーソングや旋律の重なり合う響きに関連した鑑賞、さらに歌声と楽器による表現活動などを通して、響きを味わい楽しむことに重点をおいた活動を進めていきたい。

そこでまず、鑑賞教材の「きゅう友」では、図形譜をなぞったり曲想を感じ取って身体表現をしたりしながらそれぞれの旋律を聴き分け、さらに旋律と旋律の重なり的美しさを感じ取れるようにしたい。そして、ここでの活動を次の歌唱教材「パレードホッホー」につなげていく。「きゅう友」と「パレードホッホー」の二つの特徴ある旋律を持つという共通点に気付かせた上で、「パレードホッホー」のそれぞれの旋律を歌うことにより、旋律の重なりを体感させたい。また、グループやペア等、形態を変えながら互いに聴き合い、歌えるような工夫をしていきたい。器楽教材の「冬の歌」では歌声の他に、楽器の音も加えて重なりを楽しませたい。歌の主旋律に楽器による副次的な旋律を重ねる活動は、これまでたびたび経験してきた。ここでは、歌と楽器がバランスよく響き合う演奏をすることが大切であることに気付かせたい。そのためにも、互いに聴き合って表現する活動を多く取り入れていくことが必要と考える。

3. 題材の目標と評価規準

- ア 楽器の音や声の重なりに関心をもって、進んで聴いたり表現したりすることができるようにする。
- イ 旋律の特徴や二つの旋律の重なりによって生まれるおもしろさ・美しさを感じ取って表現に生かすことができるようにする。
- ウ 他の旋律を聴きながらバランスを考えて表現できるようにする。
- エ 旋律の特徴や楽器の音色の重なりに関心をもつ、それによって生まれる響きを感じ取って聴くことができるようにする。

〈題材の評価規準及び学習における具体的な評価規準〉

	ア関心・意欲・態度	イ音楽的な感受 表現の工夫	ウ表現の技能	エ鑑賞の能力
歌 唱 器 楽 鑑 賞	○ ○	○ ○ ○	○ ○	○
題 材 の 評 価 規 準	楽器の音や声の重なりに関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	二つの旋律の特徴をとらえ、それぞれの旋律の重なりによって生まれるおもしろさ・美しさを感じ取って、表現に生かしている。	他の旋律を聴きながらバランスを考えて表現している。	旋律の特徴や楽器の音色の重なりに気が付き、それによって生まれる響きを感じ取って聴いている。

具 体 の 評 価 規 準

歌 唱	①旋律の重なりのおもしろさや楽しさに気が付き、進んで表現しようとしている。	①旋律の特徴を感じ取って、歌い方を工夫している。 ②二つの旋律と旋律の組み合わせによって生まれる響きを感じ取っている。	①柔らかい発声で友達の歌声に耳を傾け、それに合わせて歌っている。	
器 楽	①合わせることに興味を持って進んで表現している。	①曲の旋律の感じに合わせて、リズム伴奏を工夫している。	①歌や他の楽器の旋律を聴き、それに合わせて演奏している。	
鑑 賞		①二つの旋律の特徴や旋律と旋律のかかり合いによって生まれる響きを感じ取っている。		①旋律の組み合わせや重なり合いによって生まれる響きの広がりや気分の変化を感じ取って聴く。

4. 題材の指導・評価計画 (8時間扱い)

教材名 A「パレードホッホー」 B「きゅう友」 C「冬の歌」

時	学 習 活 動	評価計画	主な教材
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「パレードホッホー」の旋律の特徴を感じ取って、主旋律を歌う。 ・ 前半の旋律をスタッカートやシンコペーションに気をつけて歌う。 ・ 後半の旋律をレガート唱で歌う。 	歌唱—ア① イ①	A
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「きゅう友」の二つの旋律の特徴や重なりに気をつけて聴く。 ・ 鑑賞して気付いたことを話し合う。 ・ 二つの旋律を身体表現により聴く。(行進・ハンカチを振るなど) 	鑑賞—イ① エ①	B
3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「パレードホッホー」のそれぞれの旋律の特徴を感じながら二つの旋律を重ねて歌う。 ・ 「きゅう友」と比べ、どちらも特徴ある二つの旋律を持つことと、それを重ね合わせることができることに気付く。 ・ 二つの旋律を重ねて歌う。 	歌唱—イ②	A
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「パレードホッホー」の二つの旋律を互いに聴き合いながら歌う。 ・ 友達の歌声も聴きながらそれに合わせ、やわらかい発声で歌う練習をする。 ・ 互いの歌を聴き合う。 	歌唱—ウ①	A
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「冬の歌」の曲の感じをつかんで歌う。 ・ 情景を想像しながら曲の感じをつかむ。 ・ 軽快なりズムにのって主旋律を歌う。 	歌唱—イ①	C
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「冬の歌」の副次的旋律をリコーダーで演奏し、歌と合わせる。 ・ 副次的旋律をリコーダーで練習する。 ・ 歌とリコーダーを合わせて演奏する。 	器楽—ウ①	C
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「冬の歌」にリズム伴奏をつけて歌と合わせる。 ・ 旋律に合ったリズムを選択する。 ・ 楽器を効果的に選択し、歌と合わせる。 	器楽—イ① ウ①	C
8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「冬の歌」の歌、リコーダー、リズム伴奏を合わせて演奏する。 ・ 歌とリコーダーにリズム伴奏を加え、練習する。 ・ 互いに演奏を聴き合う。 	器楽—ア① ウ①	C

5. 本時の指導

(1) 授業の構想

本時では、全く違った特徴を持つ二つの旋律を重ねて生み出される、響きの広がりや気分の変化を感じ取らせることを大きなねらいとしている。まず、前時に旋律の重なり合う響きに関連した鑑賞教材である「きゅう友」で、二つのふしの重なりによる美しさやおもしろさを感じ取らせたい。そして本時では「パレードホッポー」との共通性に気付かせ、特徴ある二つの旋律を重ね合わせることに興味を持たせたい。さらに二つの旋律を重ね歌うことにより、響きの広がりや曲の気分の変化を体感できるようにしたい。その際、リボンやボールを使い、違った旋律が重なっていることを視覚的にも実感できるようにする。

(2) 目標

二つの特徴的な旋律を重ねて歌うことによって生まれる響きを感じ取ることができる。

(3) 評価の観点と判断基準

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への支援や手立て
二つの旋律と旋律の組み合わせによって生まれる響きを感じ取っている。 【感受・表現の工夫】	自分の旋律ともう一つの旋律との響き合いを聴きながら表現し、さらに感じた響きを言葉で表している。	自分の旋律ともう一つの旋律との響き合いを聴きながら、表現をしている。	もう一つの旋律につられ歌えない場合、そばで一緒に歌ったり、同じ旋律を歌う児童の声をよく聴くように助言したりする。

(4) 展開

時間	学 習 活 動	教師の支援 (○) 評価 (●)
10	<p>1 授業の雰囲気作りをする。</p> <p>(1) 既習曲の歌唱 (今月の歌) ・「それは地球」を歌う。</p> <p>(2) 特徴的な旋律を持つ数曲に 合わせて身体反応する。</p> <p>(3) 「パレードホッポー」を歌う。</p> <p>(4) 「きゆう友」との共通点 (特徴 ある二つの旋律を持つこと) を見つける。</p> <p>2 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>・と・のふしを重ねて楽しく歌 おう。</p> </div>	<p>○前半と後半の曲の気分の違いを感じさせるために身 体反応をしながら歌うようにする。</p> <p>○既習曲の中から特徴的な旋律を持つ曲を聴き、身体 反応する活動をする。</p> <p>○二つの旋律の特徴を感じ取れるよう、旋律に合わせ て身体を使いながら歌う</p> <p>○「きゆう友」の二つのふしを取り上げ「パレードホ ッポー」との共通点に気付くようにする。</p>
30	<p>3 二つの旋律を重ねて歌ってみ る。</p> <p>(1) 二つのグループに分けて練習 する</p> <p>(2) 少人数グループ (4~6人) で練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループを作り、それぞれ離れ た場所で練習する。 ・ 旋律を重ねた感想を発表する。 <p>(3) いくつかのグループを発表 させ聴き合う。</p> <p>4 みんなで合わせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数名を前に出して聴かせる。 	<p>○・と・の旋律が重なる部分のみ取り上げて、合わせ て歌うようにする。</p> <p>○・と・を重ねて歌う際、出だしがずれないように拍 子を取る。</p> <p>○重ねてもそれぞれの旋律の特徴を感じながら歌える ようにリボンやボールを提示し、二つの違った旋律 が重なっていることを視覚からも感じることができ るようにする。</p> <p>○ 二つの旋律をオルガンで弾き、互いにつられないよ うにする。</p> <p>●二つの旋律と旋律の組み合わせによって生まれる響 きを感じ取って歌っている。【表情・態度・歌声】</p> <p>○歌う技能に偏りが無いよう、前もってグループ編成 しておく。</p> <p>●二つの旋律と旋律の組み合わせによって生まれる響 きを感じたことを発表している。【発言・挙手】</p> <p>○それぞれの旋律を感じながら歌ったり、きれいに重 ねて歌ったりしているグループを紹介し、全体に広 める。</p> <p>○友達の発表を聴いて、重ねて歌うことの美しさや楽 しさを感じさせたい。</p> <p>○グループ発表のよかった点を取り入れ、全体を通し て歌う。</p> <p>○ 友達からの評価をもらい、意欲につなげたい。</p>
5	<p>5 学習を振り返る。</p>	<p>○本時の学習を振り返り、発表し合って互いに認め合 うようにする。</p> <p>○次時の予告を伝える。</p>